

南 画

—館蔵品からみる近世から近代まで—

令和7年8月2日（土）～9月28日（日）

展示室

特別展示室

南画とは中国の南宗画に影響を受けて、江戸時代に成立した独自の画派です。本展では、渡辺華山をはじめとする近世から近代の南画をお楽しみください。

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
	おかだべいさんじん 岡田米山人	せんこうさんすいず 浅絳山水図	文化11(1814)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
重美	おかだはんこう 岡田半江	さんすいず 山水図	享和3(1803)年	紙本墨画淡彩	掛幅	岡田米山人賛
	岡田半江	べいほうさんすいず 米法山水図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	扇面	
	岡田半江	か き かつ 花卉冊	江戸時代後期	紙本着色	画帖	
	くしろ うんぜん 釧 雲泉	しゅうけいいっしず 春景逸思図 かざんちやううず 夏山聞雨図 しゅうけいべきくず 秋溪覓句図 かんこうどくちやうず 寒江独釣図	文化5(1809)年頃	紙本墨画淡彩	掛幅	
	うらかみしゆんきん 浦上春琴	りゅうかじゆたいちやうず 榴花寿帯鳥図	江戸時代後期	紙本着色	掛幅	
	浦上春琴ほか	おうすいじゅうごけいしがかつ 鴨水十五景詩画冊	弘化3(1846)年	絹本着色	画帖	
	たに ぶんちやう 谷 文晁	さんすいず 山水図	江戸時代・寛政年間	紙本墨画淡彩	掛幅	
	わたなべかざん 渡辺華山	し せんしゆくじゆず 芝仙祝寿図	天保4(1833)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺華山	こうしかんぼくず 高士観瀑図	天保9(1838)年	絹本着色	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	みやうがなすしゅうちゅうず 茗荷茄子秋虫図	天保9(1838)年	絹本着色	掛幅	
	の ぐちゆうこく 野口幽谷	か き かつ 花卉冊	明治18(1885)年	絹本着色	画帖	
	野口幽谷	すいぼくがじょう 水墨画帖	明治時代	紙本墨画	画帖	
	さくらませいがい 桜間青厓	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅	
	桜間青厓	せいりよくさんすいず 青緑山水図	天保7(1836)年	紙本墨画淡彩	扇面	
	やまもときんこく 山本棨谷	さいかんせんびんず 歳寒仙品図	天保13(1842)年	絹本着色	掛幅	
	まつばやしせつてい 松林雪貞	けいとう 鶏頭	明治時代	絹本着色	掛幅	
	たぎきそうらん 田崎草雲	しやうどうしゅうしよく せつげつきやうけいず 蜀道秋色・雪月橋溪図	明治21(1888)年	絹本着色	掛幅	
	おくはらせいこ 奥原晴湖	はくろうこうじゆず 白雲紅樹図	明治44(1911)年	絹本着色	掛幅	
	とみおかてっさい 富岡鉄斎	じゅうろくろくかんず 十六羅漢図	明治～大正時代	絹本着色	掛幅	
	こむろすいうん 小室翠雲	せんざんろうかんず 儼山楼観図	昭和時代前期	絹本着色	掛幅	

重美＝重要美術品

全て当館所蔵

田原市博物館

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を習います。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛸社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

釧 雲泉 宝暦9(1759)年～文化8(1811)年

島原藩士の子として、肥前国島原(現在の長崎県雲仙市)付近で生まれました。長崎に遊学し、南画や学問を学びました。その後、諸国をめぐり、江戸に下向。寛政3(1791)年頃からは現在の岡山県に住み、浦上玉堂らと交流を深めました。文化3(1806)年頃から越後(現在の新潟県)に住み、越後出雲崎で亡くなりました。

岡田半江 天明2(1782)年～弘化3(1846)年

岡田米山人の長男として大坂に生まれました。幼少の時から父より絵を習います。父と同じく藤堂藩の下役として仕えました。父の没後、家業の米屋を継ぎましたが、文人画家としても活動을続け、田能村竹田や頼山陽、篠崎小竹などと交友しました。潤いのある豊かな作品が特徴です。

山本栞谷 文化8(1811)年～明治6(1873)年

石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸斎に絵を習いました。江戸へ出府後、渡辺華山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

桜間青厓 天明6(1786)年～嘉永4(1851)年

岡崎藩主本田家に仕えた岡崎藩士です。渡辺華山・椿椿山と交友していました。青厓が描く山水画は「山水は我

青厓に及ばず」と華山に言われるほど得意でした。蛸社の獄で華山が捕らえられた際に、華山の釈放に尽力した一人です。

野口幽谷 文政10(1827)年～明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を習いました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23年、橋本雅邦らとともに帝室技芸員に任命。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。

奥原晴湖 天保8(1837)年～大正2(1913)年

古河藩士池田政明の四女として生まれました。本名は池田せつ。枚田水石に絵を学びました。29歳の時、関宿藩奥原家の養女となり江戸に出て、上野に画室を構え「墨吐烟雲楼」と命名し、「晴湖」と号しました。最盛期には300人以上の門人がいたと言われています。その後、上川上村(現在の埼玉県熊谷市)に転居し、画室を「繡水草堂」、「繡仏草堂」などと命名し、作品を発表し続けました。

田崎草雲 文化12(1815)年～明治31(1898)年

江戸神田で生まれました。親戚の金井烏洲に絵を習い、谷文晁や渡辺華山らに私淑しました。39歳の時に足利藩の絵師として仕えました。明治維新後は足利に居住して画業に専念します。内国勸業博覧会などへ出品し、賞牌を受けました。明治23(1890)年には帝室技芸員に任命されました。

松林雪貞 明治13(1880)年～昭和45(1970)年

福島県白河の出身で、旧白河藩家老の家に生まれました。本名は松林孝子。明治29(1896)年、野口幽谷に師事し、翌年日本美術協会で二等褒状を受けました。明治34年、同門の伊藤篤(後に松林桂月)と結婚しました。その後は日本美術協会展に連続で入賞しますが、次第に展覧会への出品は減りました。写生に基づく花鳥画を多く描きました。

小室翠雲 明治7(1874)年～昭和20(1945)年

画家である小室牧三郎の長男として現在の群馬県館林市に生まれました。田崎草雲に師事して南画を習います。日本美術協会展などに出品し受章を重ね、文展の審査員も務めました。昭和17(1942)年に南画鑑賞会を設立『南画鑑賞』を刊行、昭和19年に帝室技芸員に任命されました。